

北海道大学（札幌）ナレッジコンプレックス（仮称）
施設整備構想書（案）

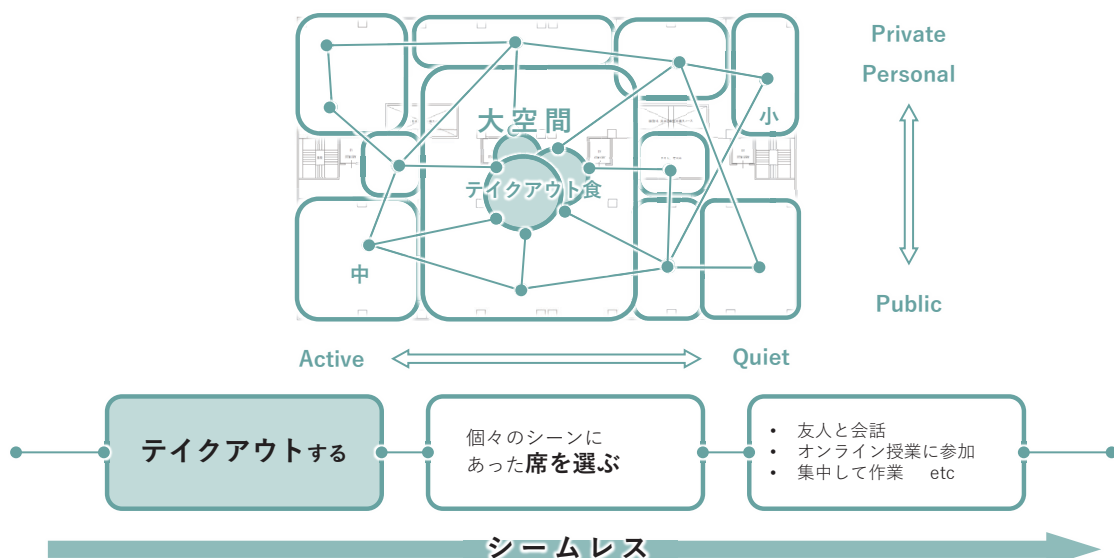
国立大学法人北海道大学

ハード面 3つの要素 (案)

- A** **COMPLEX AREA**
- B** **中間領域**
- C** **周辺環境**

A **COMPLEX AREA**

シーンにあった空間を選択でき、
多様な交流を促す空間



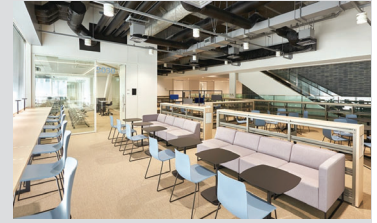
相互に影響しあう「大・中・小空間の複合エリア」



立命館大学 アクロスウイング1階

大空間をコアとして、周囲に中・小の空間を配置
シームレスに接続することで、影響しあう複合エリア
様々なシナジー効果を生み出す

A COMPLEX AREA



ラウンジ
食事、ディスカッション、発表、様々な用途に

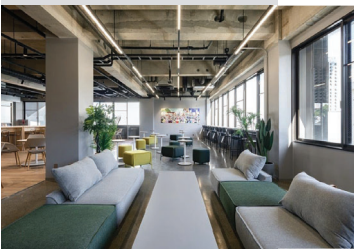


リビング
食事OK。インフォーマルな空間



レセプションブース
少人数の打合せ
グループミーティング

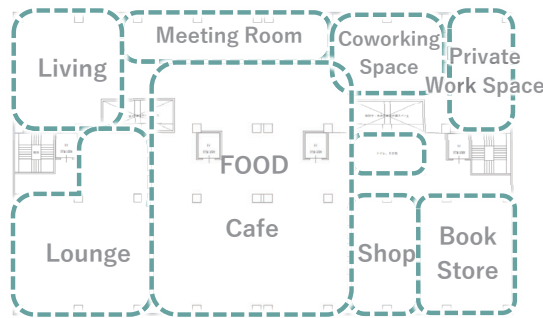
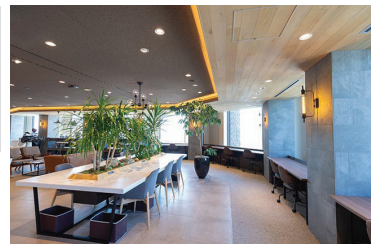
レイアウト例



リラックス、食後のくつろぎ
友人と談笑する落ち着いた空間



ガラス張り
活動の可視化
相互に影響しあえる



食事、自由なコミュニケーション
創造空間



軽食や飲み物、本、文房具、雑貨といった多種多様なモノを提供する



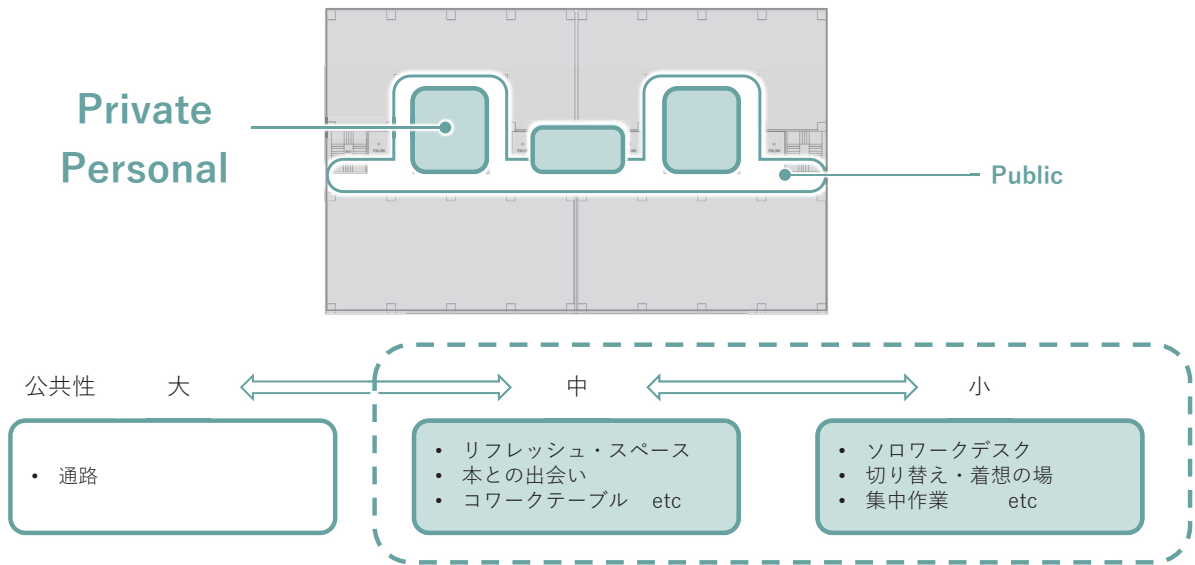
オンデマンド授業や作業に
一人で集中することが出来る



B

中間領域

それぞれの学習スタイルにマッチするスキマ空間

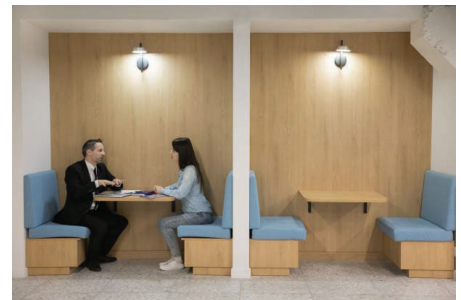


多様な活動を支えるラーニングコモンズ

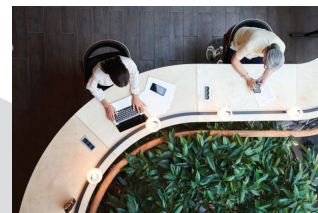
廊下でも部屋でもない空間
学習、交流、憩いの場所



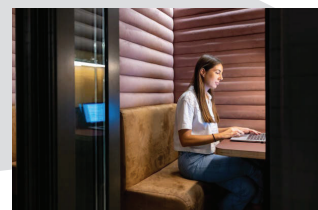
コワークテーブル グループミーティングに



ファミレスブース 小さなコモンズ



カウンター
ちょっとした
すま時間に

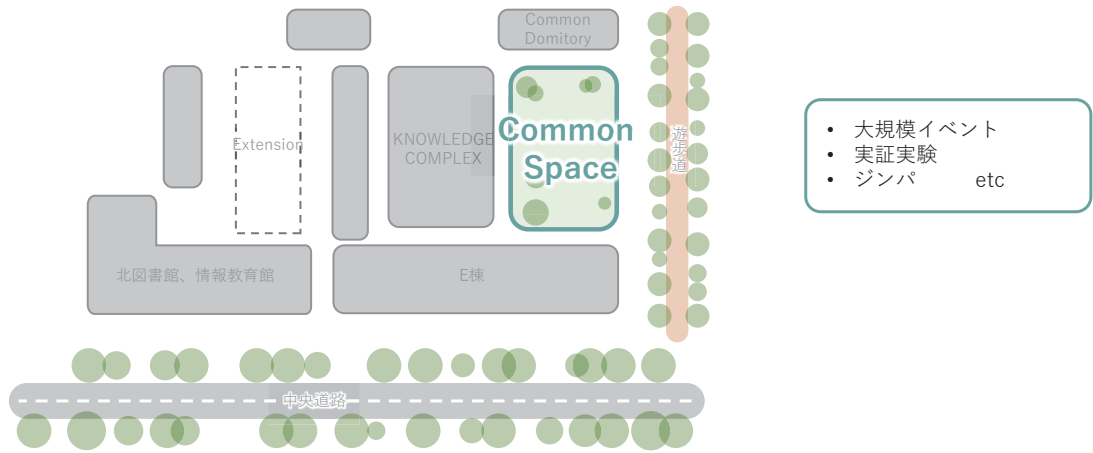


ソロワークデスク
自分だけの場所

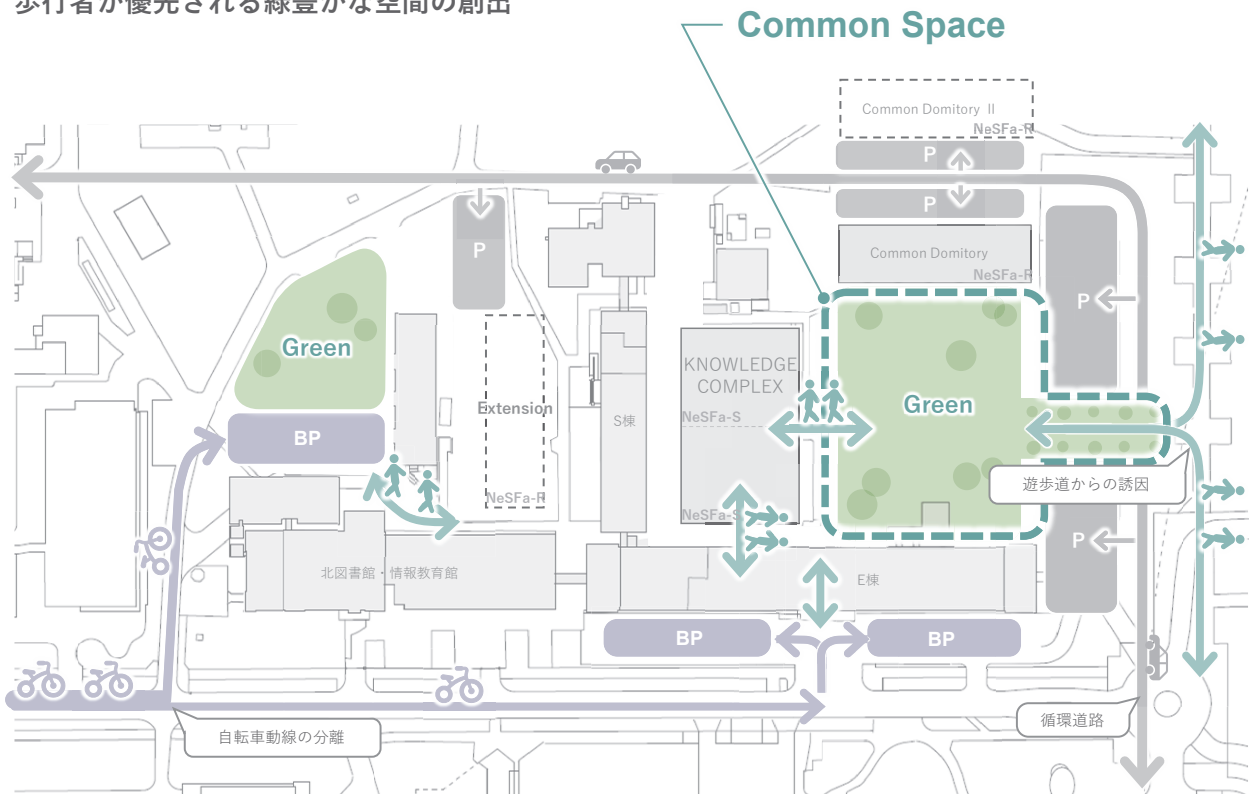
C

周辺環境

緩やかに囲まれ、安心感のある屋外空間



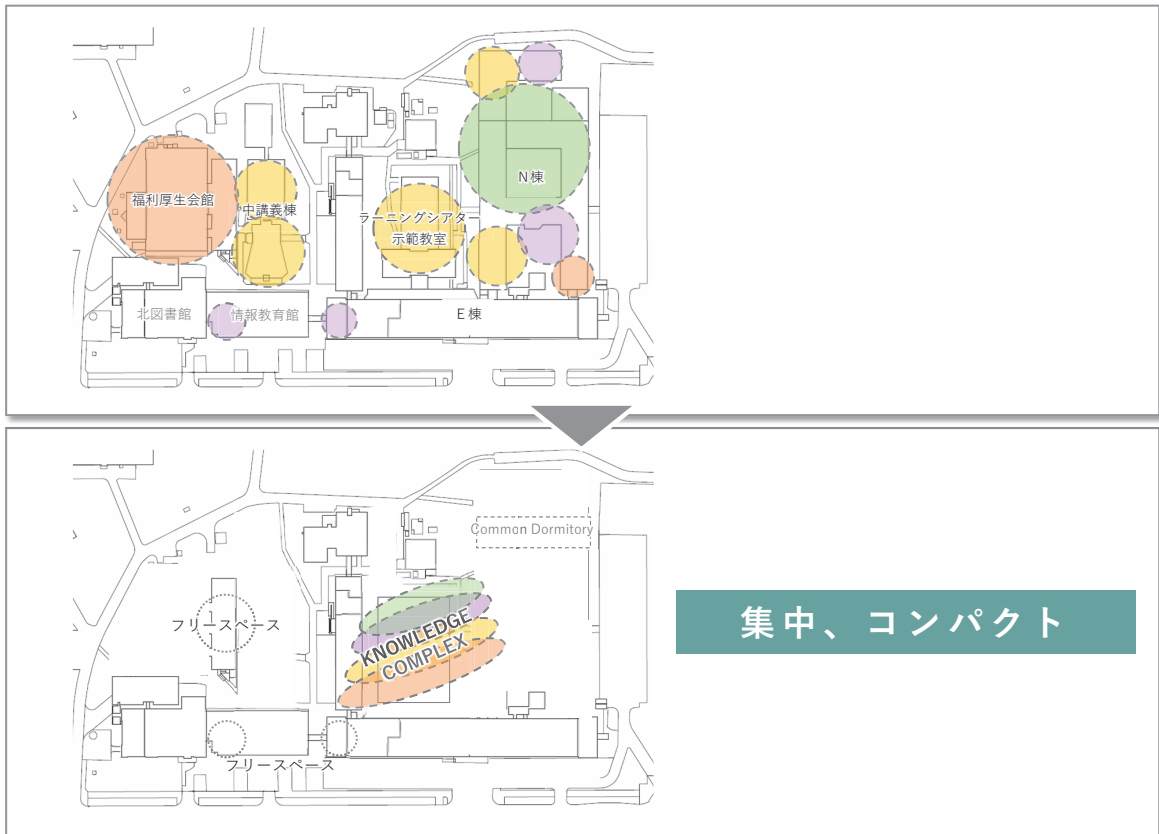
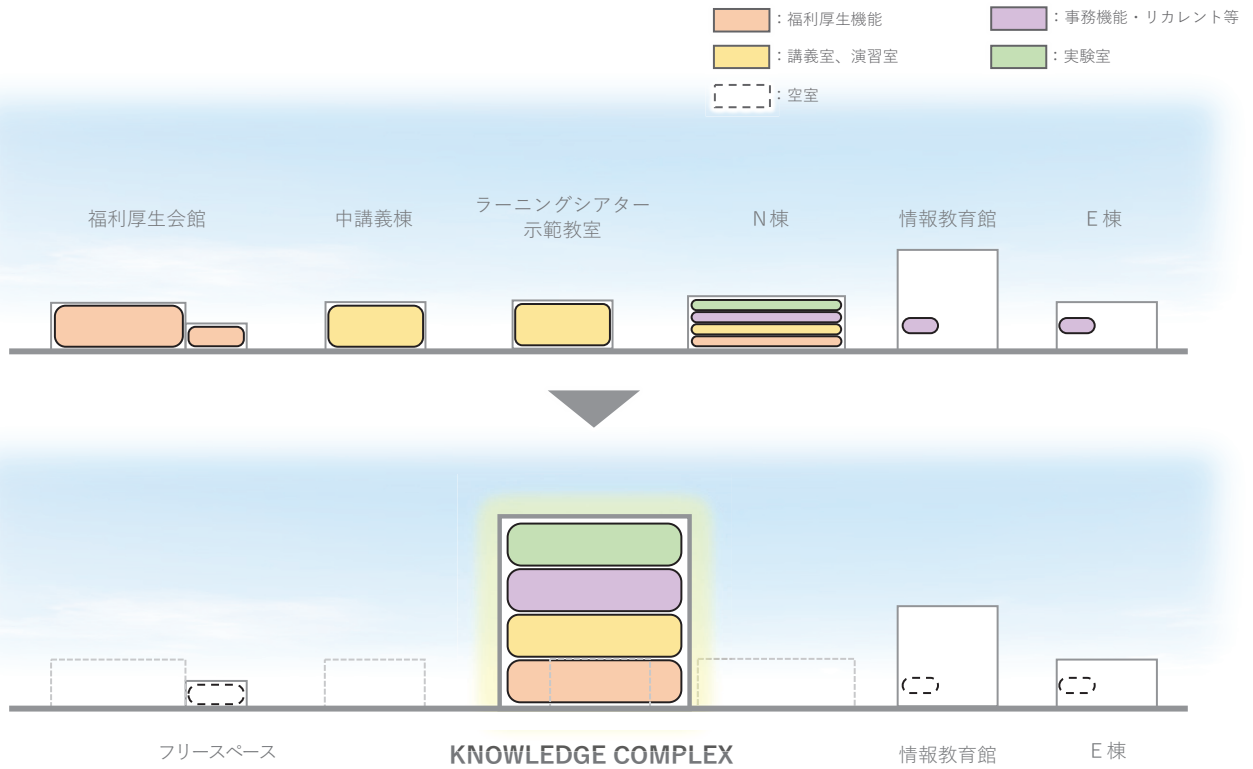
歩行者が優先される緑豊かな空間の創出



※循環道路は、他のエリアの整備進捗状況も含めた中長期的計画となる。

ハード面の概要

集約化、高層化

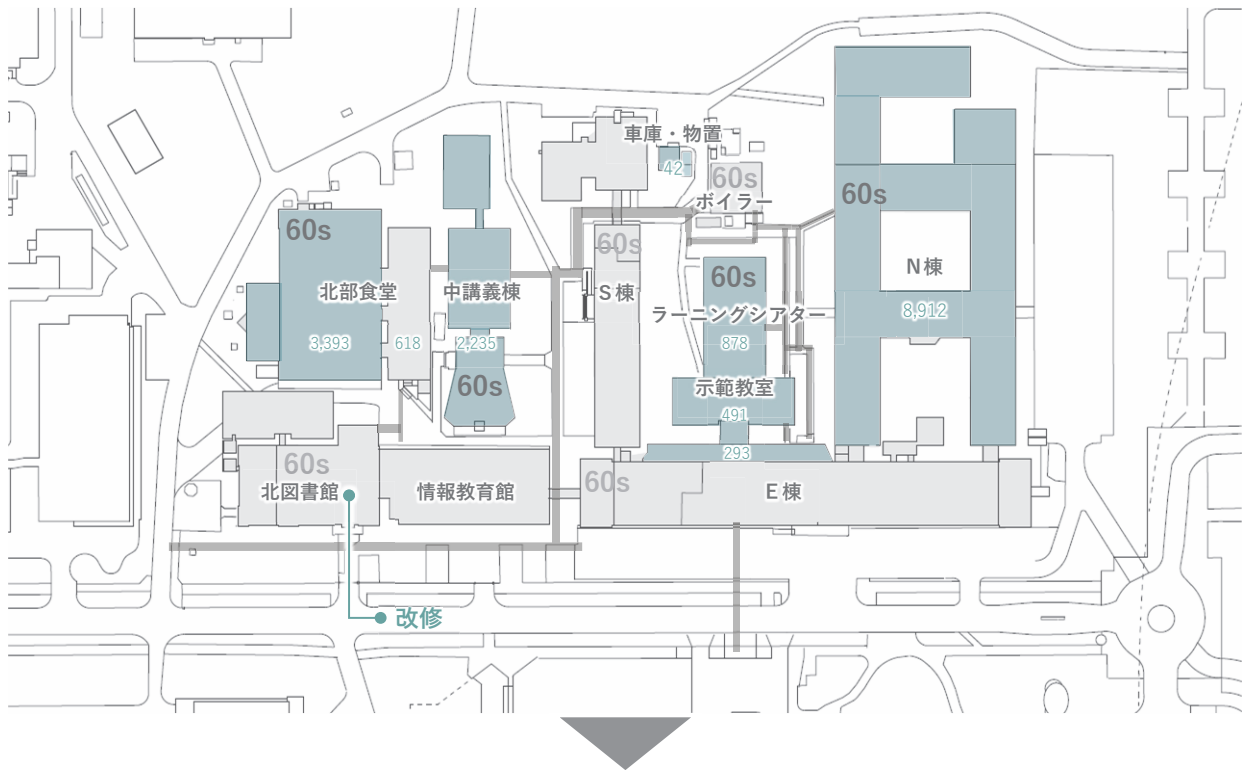


配置計画

高機構ゾーンの施設を、約1.6万㎡取壊し（大半が1960年代の老朽施設）

ローリング計画の過程で北図書館の改修を行う。

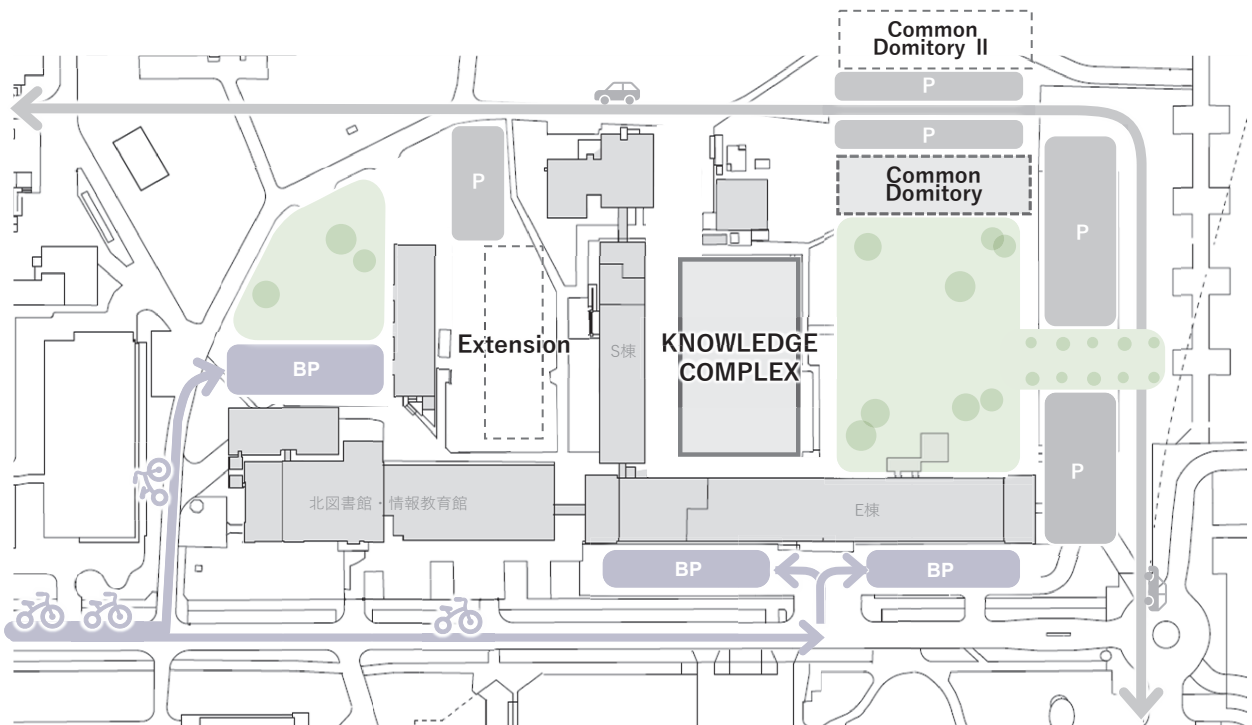
■ 取壊し対象建物
■ 共同溝



Green Redesign

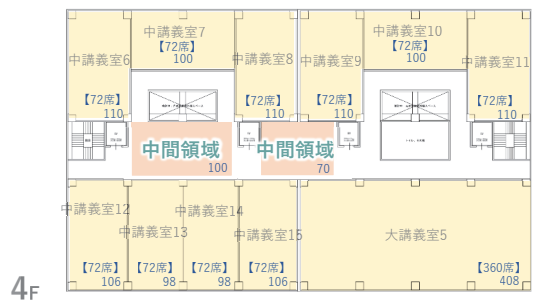
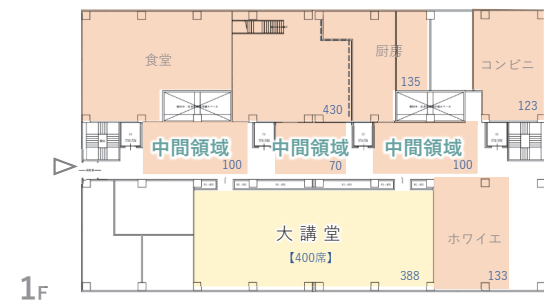
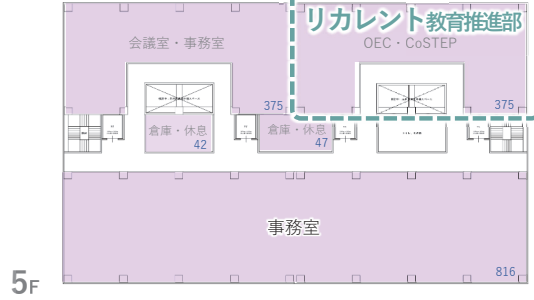
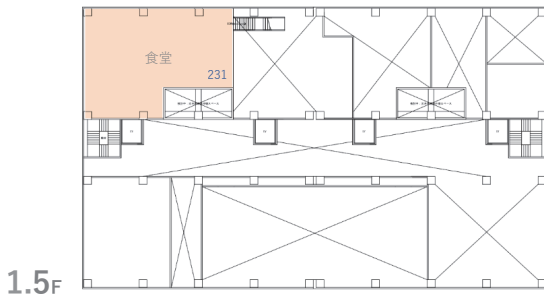
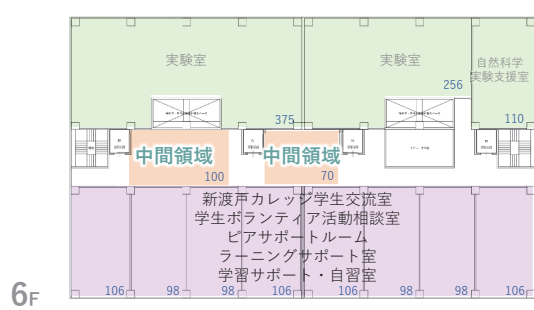
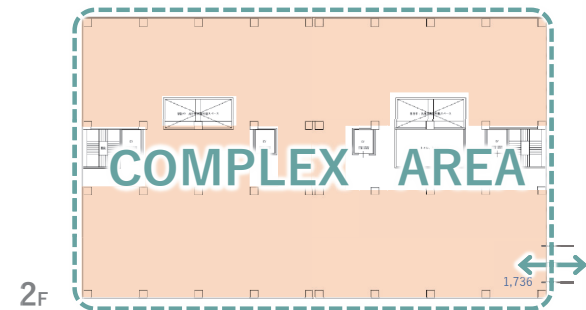
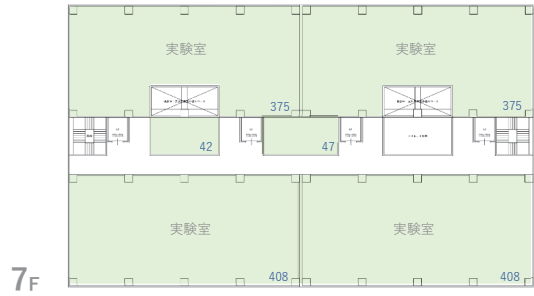
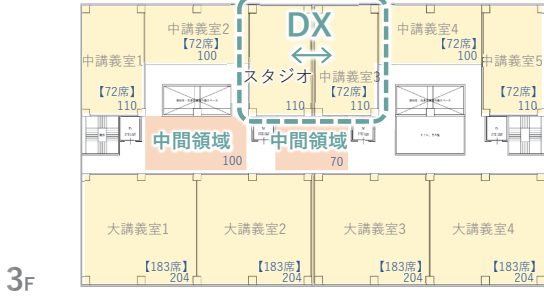
建て詰まりを解消

屋外空間や施設拡張領域を創出（Common Dormitory 2棟分）



フロアゾーニングを明快に

- 福利厚生機能
- 事務機能・リカレント等
- 講義室、演習室
- 実験室



食堂イメージ



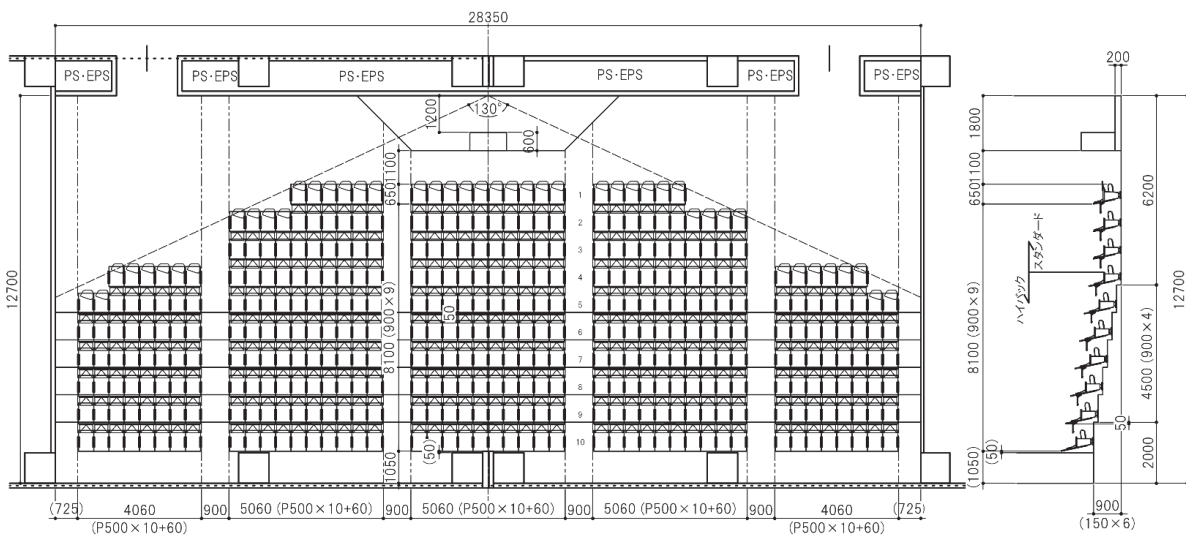
食堂内の中二階へ繋がる階段

中二階からは風景や食堂全体が見渡せる



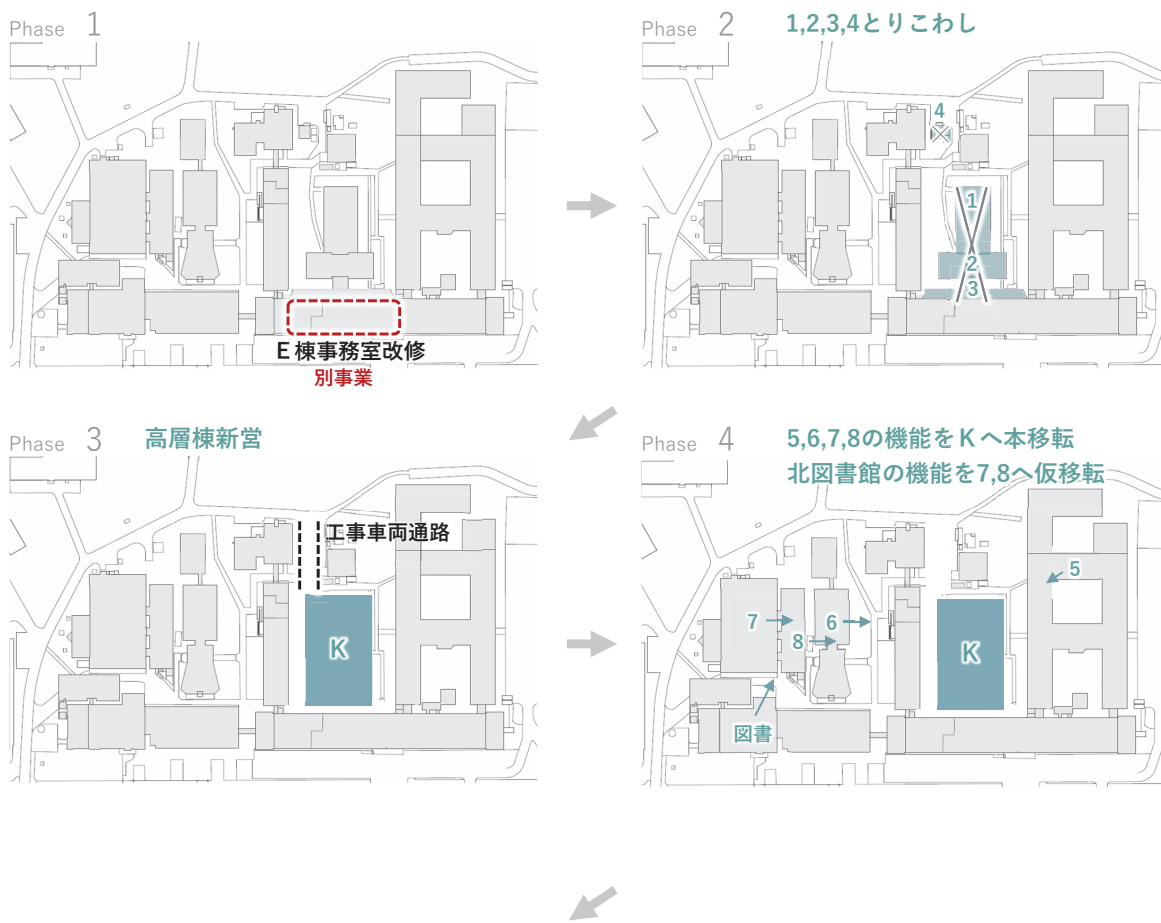
1階大講堂イメージ

- 横長大講義室
- 388㎡、400席
- 固定席
- 階段教室

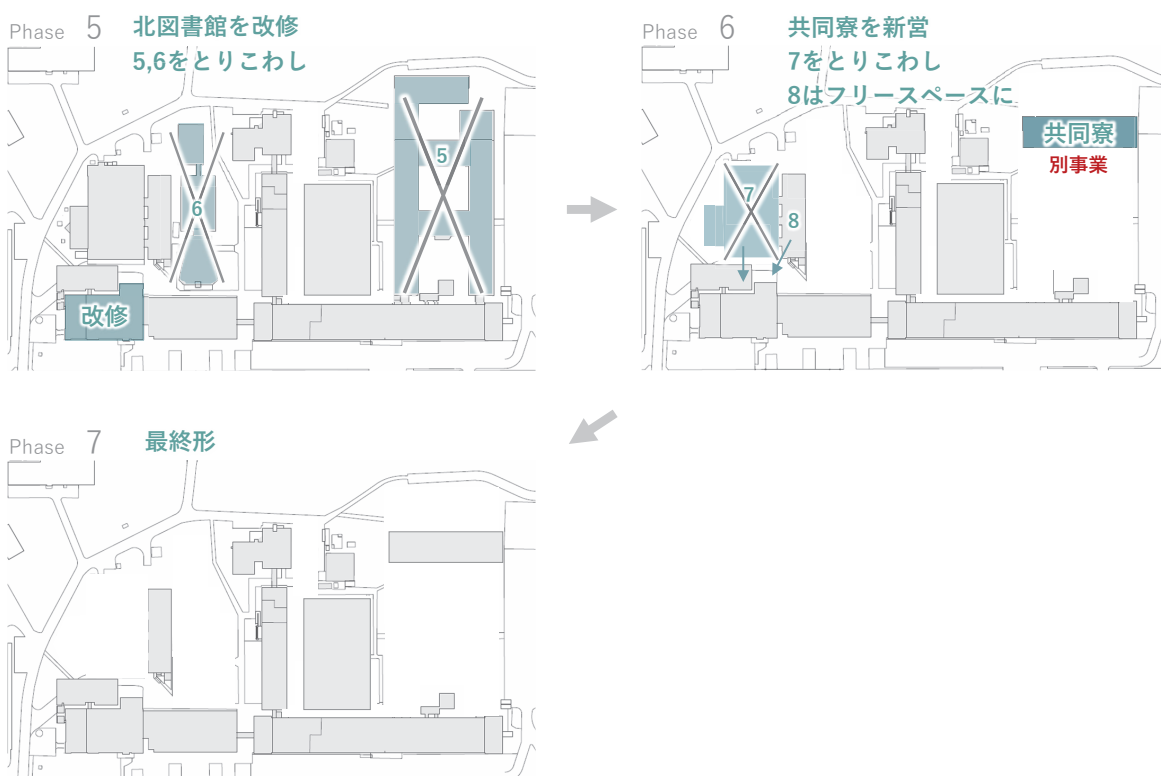


ローリング計画

先行して、E棟事務室改修とラーニングシアター（大講堂）等の取壊しを行う。
その空地に、新棟（KNOWLEDGE COMPLEX）を建設する。

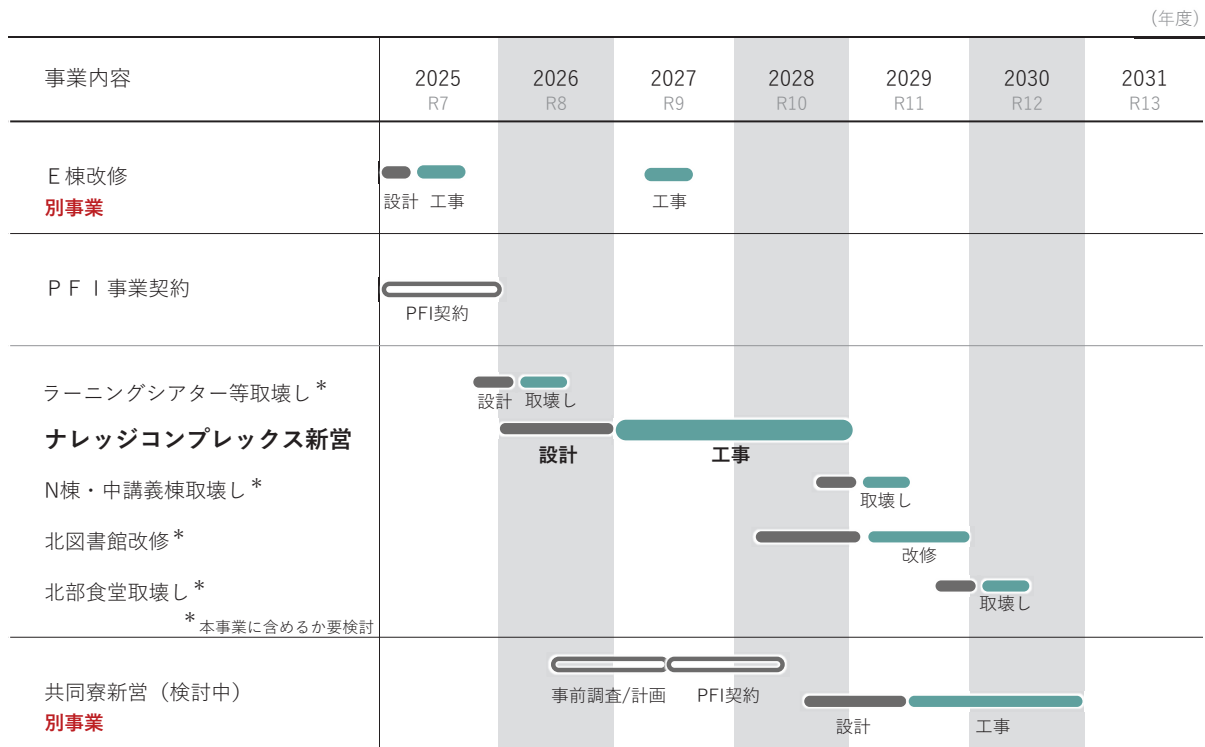


空き施設に、北図書館の機能を仮移転し、改修工事を行う。



ロードマップ

ナレッジコンプレックスは、令和8年度に設計を行い、令和9,10年度に建設

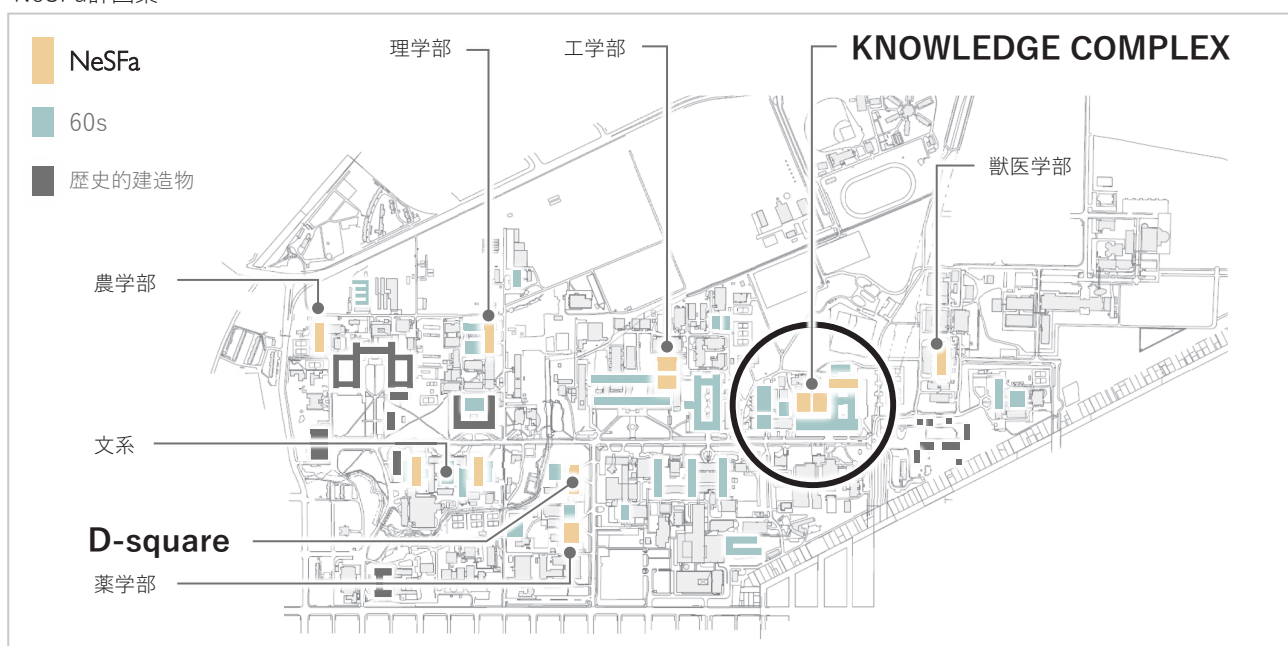


施設整備の基本的な考え方

イノベーション・commonsへの転換に向けた全体計画

NeSFa計画に基づく施設整備を行う。

NeSFa計画案



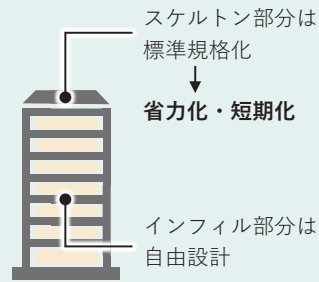
NeSFaと60sの配置案

NeSFa計画の基本的な考え方

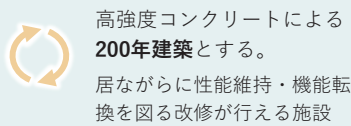
建替時期の分散化



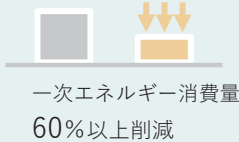
標準規格化



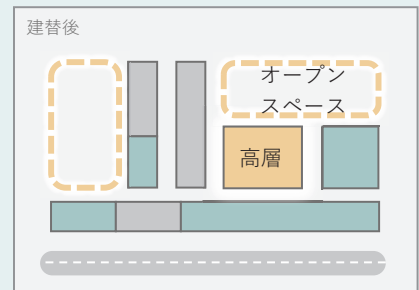
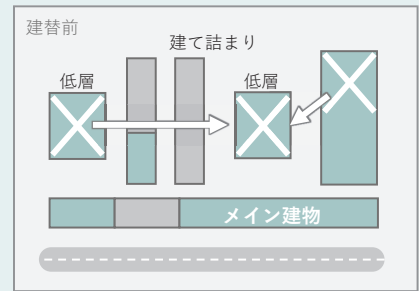
ライフサイクルの転換



ZEB-Ready



建替のイメージ



低層建物を集約し、高度利用
オープンスペースを確保し、戦略的な
施設整備の実現

建築の標準規格化

標準規格化した同一仕様の建物を、**10棟建設**する。
内装は、自由設計可能

標準規格化することで、**設計業務の省力化・短期化**を図る。

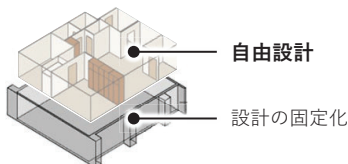
工場製品の使用、ロボット施工の
可能な設計を積極的に採用し、**施工の省力化・短期化**を図る。

標準規格化した同一仕様の建物を複数建設し、建設生産システムの効率化を図る。(New Standard Facility)



7,000㎡ × 10 棟 = 7万㎡

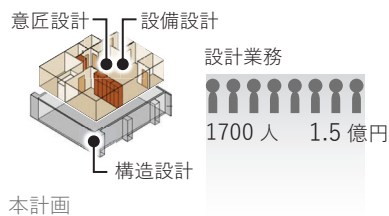
構造・外装部分は、同一設計とし効率化を図るが、内装部分は、用途・機能に合わせて自由に設計できる。



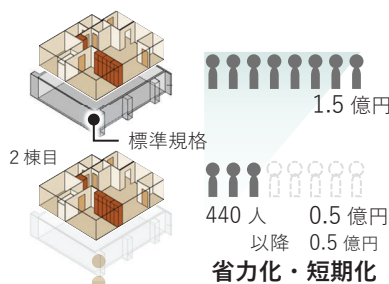
標準規格化

これまでの設計

単品設計生産



標準規格設計生産



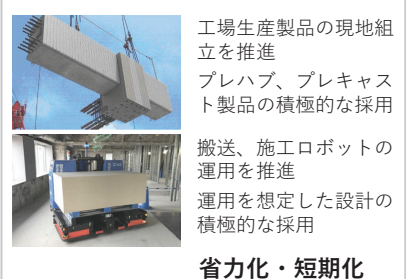
標準規格化の利点 (設計)

これまでの施工

現地屋外生産



工場製品組立生産

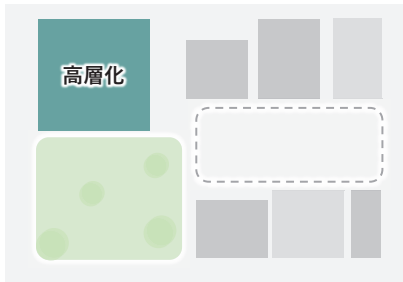


標準規格化の利点 (施工)

高機構ゾーン再編のコンセプト

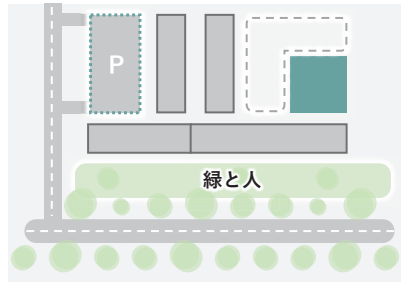
高層化による効率化と緑地空間の創出

スマート・エフィシエンシー



- 高層化によるゆとりある建物配置
- 面積集約・抑制とエクセレンス強化のための洗練
- 省エネルギー

みどりの軸の形成



- “表”と“裏”の空地を確保
- 車両は後方に、緑と人は前方に
- 芝生化により屋内と屋外を繋ぐ、グリーン・ネットワークの形成

2つの創出空間

● コモン・スペース

ゆるやかに建物に囲まれた環境



● オープンスペース

将来の施設拡張用地



改善事項

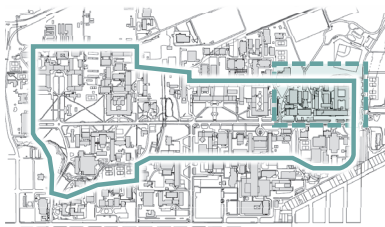
循環道路・駐輪場等の構築

- 車両用循環道路を構築し、トランスポートビリティを強化
- 不足する駐輪場を“裏”に整備



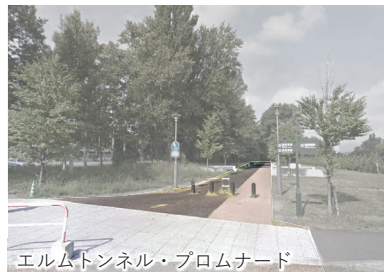
緑地に駐輪

：循環道路

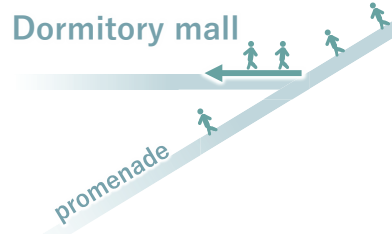


遊歩道からの誘引

- 共創の機会を演出する多様な機能を
- 「ドミトリー・モール」を形成



エルムトンネル・プロムナード



北図書館の改修

- 経年54年、2007年に部分改修
- 学術雑誌の集約保管により、部局図書室の狭隘解消を



改築ローリングを進める過程で、移転先を確保し、改修を実施